

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394500041		
法人名	社会福祉法人かなえ福祉会		
事業所名	グループホーム すないの家 尾張旭 やぐるま草		
所在地	尾張旭市柏井町弥栄256-1		
自己評価作成日	令和 5年 2月 7日	評価結果市町村受理日	令和5年5月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jigy-osvoCd=2394500041-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和 5年 2月 21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日職員と一緒に家事を行う事で認知症予防に努めています。
 また出来る限りで自宅にいた時と同じように過ごせる空間づくりをしています。
 最近ではコロナ禍の影響でなかなか外出ができない為、施設内や敷地内を散歩し、歩行機能の維持をするのと同時に気分転換も図るようにしています。
 レクリエーションでは時季に合わせて創作作りにも取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ※コロナ禍の為、対応不可	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ※コロナ禍の為、対応不可	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人と事業所それぞれに理念がある。法人理念に関しては事務所に貼付しており、事業所理念に関しては社員証に挟んでいる。また各自理念に基づいた目標設定をしており、ケアを行う際に随時確認できるようにになっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍の影響で利用者が実施する事は難しいが、職員に関しては早朝時の外の清掃を行う際に地域の方と挨拶を交わす等の関係性がある。また、町内会の事に関しては回覧板などで随時共有している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	施設にていつでも相談できる体制に努めている。 入居希望以外の方でも話を聞く事で安心感を持たせられるように援助を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議に関してはコロナ禍の影響で書面のみでの提出となっている。その為、状況等はわかりやすく丁寧に記入する事を心掛けている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	不明点などがあれば連絡し指示を頂いている。また研修会の案内やコロナ関連を始めとする情報もメールで頂く事ができ情報収集に繋がっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施設全体で入所前にリスク説明を家族にする際に身体拘束をしない事も書面に謳っており、了承を得ている。 また勉強会により身体拘束の重要性を各職員が把握している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束同様、定期的に勉強会を行っている。 また委員会を通じて虐待防止の重要性を確認したり、ユニットで疑問がある際は事例を用いて話し合う機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在は成年後見制度を利用されている方はいないが、市役所より勉強会などの通知が来ることがある為、目を通すようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は特に時間を費やし家族が理解されるまで説明するように努めている。改定時は都度同意書に署名を頂いており、そこで疑問点がある際は改定する根拠を直接お話しし、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	リモート面会に来られた家族にはそこで要望がないか可能な限り確認している。他にもお便りで日頃の様子を発信したり、電話連絡の際に家族に要望がないかを声掛けをしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月行うリーダー会議でユニットでの困り事などの意見交換を行っている。また、年に2回施設長が職員一人ずつ面談を行っており、そこで現場の声を聞く事で施設運営向上に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	施設長が積極的に職員に話し掛けを行い、職員一人ひとりの状況把握をしている。またユニットで困っていることなどがあるとアドバイスしてケアの向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人全体でオンラインでの研修を取り入れており、各職員がそこで学んだ内容をまとめて施設長は随時確認して今後の介護に活かすようにアドバイスをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	ZOOMで行われる施設部会に定期的に参加し、そこで情報の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	信頼関係を築く為にまずは利用者の話を聞く事を大切にしている。その中で今までされてきた事や趣味等の話も聞き、利用者自身にも安心感を持っていただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前にもこまめに連絡する事で安心感を得られるように努めている。家族の想いや不安な事、心配な事を聞き、できるだけスムーズに入居できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	日々のコミュニケーションを大切にしてい必要必要な支援が何かを考えて対応している。また職員間と話をしサービス利用が必要であれば検討するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	暮らしを共にする者として利用者を含め出来るだけ皆でいろいろな事を決める様にしている。お互い支え合う関係である為に日々の家事等、何をするにも一緒に行う事を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時や電話をする際は出来るだけ家族が話しやすい様に話し方や声のトーンに気を付けて会話をしたり、その際に日々の様子を伝えたりと利用者を一緒に支えていける関係作りを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍の影響で外出援助ができていないのが課題である。その中で携帯電話を持参されている方への援助や面会時に職員と一緒に立ち合い近況を話している。今後は手紙などを書く事の提案ができればいいと思っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士が良い関係でいられるように日々観察し、時には間に入りコミュニケーションが円滑にできるように対応している。また必要に応じて配置の検討も行う等の環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居された方が併設特養に再入所された事があった為、相談なども随時受け付けている体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で表情や言動から利用者の想いを汲み取るように努めている。確認ができない方は家族と利用者本位となるように話し合いをしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの暮らしや生活環境について家族や利用者から詳しく話を聞き、職員間でその情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者のできることに目を向け、コミュニケーションを取りながら利用者一人ひとりの生活のリズムの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ユニット職員が利用者それぞれについてモニタリングを行い、目標の修正やケアの仕方について意見を交換してケアプランに反映するように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子を個別に記録して職員間で情報を共有しながら利用者にとってより良いケアを目指すようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者一人ひとりに希望を聞き、出来る事を最大限に柔軟姿勢で対応ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍になる前には、ボランティアの受け入れを数多くしており、交流も盛んであった。季節の行事などで個々の力量を発揮している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	施設の往診医もいるが、希望があれば個別のかかりつけ医へ通院ができるよう援助している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	併設特養の看護師に利用者の状態を随時伝えている。体調や表情の変化を見逃さないよう利用者の注視は怠らないようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には退院後の生活を見据えて家族や入院関係者と連絡を取り合い、情報共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	現状、看取りケアは行っていないが、重度化した場合に向け家族と話し合いを持っている。また、日常生活動作が困難となった方に関しては家族と話し、併設特養へ転居の提案をして、円滑に次の生活ができるように援助を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時に備えてマニュアルが備えてある。また、実際対応した後に反省点なども考慮しながら次回に繋げられるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練は日中・夜間想定共に定期的に行っている。また、本施設が地域の避難所となっている為、地域との連携も課題としてあげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常に利用者を選択して頂けるような声掛けをするように気を付けている。 また言葉遣いに気を付けて尊厳を損ねない言葉かけに努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人の思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	出来る限り本人の思っている事や希望している事を知る為に日々のコミュニケーションを大切にして何かをする際は必ず本人と相談し、自己決定して頂けるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入浴では利用者のその時の調子次第で時間をずらす等の対応をしている。逆に一番風呂が好まれる方、時間帯、室温等気になられる方がいる為、その人その人に合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	着替えに関しては利用者本人と一緒に着る服を選び自己決定を促している。ヘアピンを使用されている方に関しては行事でプレゼントしたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	まだまだ準備に関しては他の施設に比べると疎い部分があるが、ご飯を炊いたり、副食の盛り付けが行えるようになってきた。まだまだできる事があると思う為、今後実行していく事が課題である。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	基本的な必要摂取量は出来る限りで促しを行っている。どうしても水分量が少ない方に関してはレクリエーションを行っている際に小分けにして提供したりして必要摂取量を摂れるように援助している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔清潔を行っている。手伝いが必要な方に関しては必要な分だけお手伝いをしているが、全て職員が行うのではなく、できる限りの事は利用者に行って頂くように努めている。 また口腔内の異常があった際には往診医に診て頂くように連携している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄パターンを把握する必要がある。現状は時間に適宜声掛けを行い援助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	一日一日排便チェックを行っている。また、水分を摂ってもらったり、リハビリ体操を行う事で腸の活性化ができるように援助している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	出来る限り本人に合わせたタイミングで入浴が楽しめる様に声を掛けている。また入浴時に他愛のない会話をしたりしてゆっくりできる空間づくりに努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中、夜間共に利用者の体調や意思にて安心して休息できるように声掛けをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	定期的に使用している薬を薬剤情報にて確認している。服薬支援に関しては内服する前に必ず氏名、日時を確認してから内服していただき、飲み忘れ等の事故防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	洗米や味噌汁作り、掃除や洗濯ものたたみができるように支援している。また、その人その人の好きな事や得意な事を見出し、その人に合わせた役割や気分転換が出来る様にお手伝いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍の影響で外出支援ができていないのが現状である。施設内や周りの散歩をする事を取り入れてはいるものの、実施できていない事が多い為、課題として今後上げる必要がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	希望者は家族と相談しお金を所持している。 移動パン屋が定期的に訪れる為、必要であればその際に現金を使うように援助している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者自身で携帯電話を所持している方には積極的に話して頂いたり、携帯電話を所持していなくても電話を掛けたいと希望があれば対応するようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に合った装飾品を利用者と一緒に作成し、フロアに飾ることで季節を感じて頂けるようにしている。 また白内障でまぶしさを感じやすい方には本人と相談しながら席を決めたりしたりと配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	個別で気の合った方同士が話ができる様にソファを置いたり、独りの時間も大切に頂けるように声を掛けたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者が居心地よく生活して頂けるように本人と話をするのはもちろん、家族とも話をし最良な居室空間づくりをするように努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	場所がわからなくなる方に関してはわかりやすいように貼り紙を使ったりと工夫している。 また、転倒防止の為に動線にも注意し、時には見直しもするようにしている。		